

# 技術の向上を図る

## 林土連が現地研修

日本林業土木連合協会(林土連)、新谷龍一郎会

長)の2021年度林土連技術現地研修会(桜島に火山との共生を学ぶ)が、1日から2日間の日程で始まった。全国から会員146人も参加があり、治山事業の取り組みや現地視察など技術の交流と向上を図った。

研修会は、2008年度から全国に点在する各協会の持ち回りで毎年開催。昨年度はコロナ禍のため中止となり、2年ぶりに鹿児島市で行われる運びとなった(九州林業土木協会共催)。



治山事業の取り組みなど講演があった=鹿児島市の城山ホテル

いる。地域の安全確保のために受注者の役割は非常に大きい。一体とな

なっており、地域の安全確保のために受注者の役割は非常に大きい。一体とな

ICT活用や地域の安全・安心確保に向けた林道整備の重要性を紹介。豪雨災害では、被災箇所

あった。2日間、さまざまな取り組みを学び、記憶に残る素晴らしい研修会になってほしい」と話

## ワークショップ開催

### 衛星測位のメリット紹介

RTK研究会

RTK研究会は11月30日、鹿児島市の県青少年会館でローコストRTK-GNSSに関するワークショップを開催した。

初回(10月19日)が定員を超えたことから2回目の開催。初めに座長を務める第一工科大学の田中龍児教授が仕組みや精度などを説いた。



衛星測位の仕組みや持つ利点などを紹介した=鹿児島市の県青少年会館

受信した電波から座標をまとめる様子を目の当たりにして、驚きの表情を見せていた。

このほか、設定方法や与論市で実施した軽石の体積計算の実例も紹介した。

小玉建築係長は、最近の法改正のポイントなど説明。長期優良住宅に関する

## 長島町の新たなシンボル

長島町の新たなシンボルとして石像「有法子(ユウファーズ)の龍」がサンセットの丘に建立

され11月30日、現地で入魂式があった=写真。石像はヒラヤマ(出水市)の平山政彦会長が寄贈し、

表し、その繁栄を本(労働者、農民、漁民、若者、行政)の指でしっかりとつ

かかったことから、約2年かかった。石像の台座は黒御影石。正面の石像名は

「鬼滅の刃」などの文字を手掛けた綱紀栄泉氏(本名・坂口綱紀氏、昭和書体)が揮毫

幸せや将来、発展につながることも、長島のシンボルとなることを期待

業・団体、行政等から約240人の関係者が参加。「100年前の緑の森へ」をスローガンに15

1921年の創業当初、森林を伐採・搬出・製材して建設業を営んでいた

植樹活動では、来賓を含めた代表7人がソメイヨシノやクリノキの苗木を植え付けてから一般植樹を開始

イベントは、同社グループの鹿児島基盤材センター(米盛直樹社長)や



石像は、100tの本もの大埋石を削って仕上げたもので、高さ約7mの重量約65t。左手に水晶を持ち、永遠なる輝きを(繁栄)を

思い、情熱を持って長島の発展や町民の幸福のため、力強く歩みを進めようと呼びかけている。ベトナムで製作され、コロナの影響などで現地検査等ができた

協賛者(感謝状受賞者)は次の通り。有法子の龍寄贈=ヒラヤマ▽特別協賛=長崎組(鶴長親雄会長) 浜畑組(古田義富社長)▽建立

協賛者(感謝状受賞者)は次の通り。有法子の龍寄贈=ヒラヤマ▽特別協賛=長崎組(鶴長親雄会長) 浜畑組(古田義富社長)▽建立

米盛建設(米盛庄一郎社長)は11月28日、鹿児島市の八重山公園に隣接する古野平市有林で創業100周年を記念した植樹祭を開いた。

「植樹を通じて創業当時の思いを共有できることは感慨深い。四季折々の花や紅葉を菜しめ、子供たちの学習の場としても



240人が15種850本の苗木を植栽した=鹿児島市の古野平市有林

活用できる森にしたい」と述べ、来賓では松下正典環境林務部長や有村浩明鹿児島市産業局長が祝辞を寄せた。

## 町に永遠の輝きを

### サンセットの丘に龍の石像

左手に水晶を持ち、永遠なる輝きを(繁栄)を

町に永遠の輝きを

町に永遠の輝きを

町に永遠の輝きを

町に永遠の輝きを

町に永遠の輝きを

町に永遠の輝きを

町に永遠の輝きを

町に永遠の輝きを